

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092600012		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	草津温泉湯治館そよ風 (お山のこまくさユニット)		
所在地	群馬県吾妻郡草津町大字草津464-702		
自己評価作成日	2020年5月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.unimat-rc.co.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和2年6月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立・自律の支援とADLの向上・低下予防を基本とした援助を行っております。医療機関と連携をとり、安全で健康的な毎日をご過ごせるようにしております。薬のいでの湯、草津温泉で皮膚疾患の予防・治療が見込めます。自然環境に恵まれ、夏は涼しく冬は床暖房で一年中快適に過ごせます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は、職員の調和を図ることによって、職員がどうまとまって利用者支援をすすめていかに力をいれ、そうしたことが利用者支援に活かされ、あわせて、下肢筋力の低下防止や身体面の維持向上、認知症改善につながると朝夕のスクワット運動を続けて支援をしていることから、利用者の介護度ランクの変化につなげている。重度化においては、口から食事が摂取できなくなったとき・医療的処置が必要になったときとし、重度化した場合には協力病院への入院対応とし連携を図っている。温泉地を活かした温泉での入浴ができ、職員の観察力を活かし温泉の効能により皮膚疾患が改善されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に唱和し、月に1回程度理念の意味を職員に伝えている。	今年度は、職場環境の整備に力をいれ、理念の1つである「ケアの4つのあい」をもとに、職員の調和を目指し、どうまとまって利用者支援をすすめていくか、それが利用者支援につながることであり、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の傾聴ボランティアやダンス等の訪問ボランティアの受け入れや依頼、お祭りの休憩所提供、町の文化祭への参加等、まだ少ないが徐々に増やしている。	お祭りの休憩所として活用していただいたり、文化祭に参加したり、散歩の際に挨拶を交わしたりして関わりを増やす努力をしているが、地域で暮らす営みのなかでの地域の関わりに課題を感じている。	生活のなかでの役割が、地域生活においても発揮できるような場面づくりに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、地域貢献という形での活動は行っていないが、入居後の介護度の軽減(1年間で4名)やご家族からの評価がCMIに伝わっており、良い評価をいただけるようになってきた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回隔月での開催を行っている。行政や地域の代表者、ご家族の代表者に参加していただき、意見や助言を参考にサービスに活かしている。	会議には、消防署長・交番署長にも参加いただき、単独外出におけるアドバイスを得ている。新型コロナウイルス感染対策において、4月5月6月は開催できていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡を密にとることはないが、前CMが草津町地域包括支援センター相談員のため、相談や報告しやすい状況にある。	運営推進会議での報告の他に、報告や相談を行っており、例えば、コロナウイルス感染リスク下における運営推進会議の開催などについても相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体が「身体拘束0宣言」を行っており、身体拘束に対しての研修をしっかりと行っている。	身体拘束をしないケアを実践するなか、特にスピーチロックには注意を払い、利用者の安全に配慮するための呼びかけが利用者にとって嫌な気持ちにさせていないか、どのような言い回しにしたらいかなど、勉強会を取り入れて職員の共通理解への努力としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所主催、会社主催での虐待防止についての研修を行っている。「身体拘束・虐待防止委員会」を設置し、勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での資格取得や研修・講習への参加経験がある職員はある程度理解していると思うが、入居後は退居先が病院か特養となるため、活用の機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、重要事項説明書の書面に沿って説明を行い、ご理解をいただいてから署名・捺印をいただくようにしている。また解約や改定の場合も書面での説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所窓口に「ご意見箱」を設置している。また、契約時にご意見ご要望は随時受け付けていることを書面・口頭で説明している。実際には面会時などに直接ご意見をいただいたり、こちらから伺って、サービスに反映出来るようにしている。	毎日接することのできない家族との関係づくりは信頼関係の構築が不可欠と考えており、面会時の機会を大切に取組んでいる。そうしたなか、面会簿の様式について忌憚のない意見の聴取につながるなど、サービスに反映できるよう取組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のグループ会議や事業所での全体会議を行っている。	希望休をできるだけ反映したり、勤務時間を変更したりして、働きやすい環境にしている。自己評価票作成においても職員個々に取組んでもらうなど、ともに運営する姿勢がある。法人が営む県内事業所の管理者会議が月1回あり、情報交換などが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現状では実態をなかなか把握できない状況だと思うが、週に3日ほど事業部長が巡回し個々が正に評価されるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や資格取得支援、介護職員実践者研修を行っている、外部研修も積極的に参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当社の他事業所とは交流を持っている。他社の事業所とは外部研修・講習会での交流のみ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメント時点で本人のご要望を伺い、最適な介護計画の作成とケアの実践を心掛けている。できる限り本人に寄り添えるケアを目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメント時点でご家族のご要望を伺い、最善を尽くせる様計画作成担当と協議しケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設利用申し込みをいただいた時点で、担当CMを含め(通して)説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「やってあげる」介護ではなく、できることは自分でやらせてもらう「自立・自律」の支援を目標にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	すべてとはいかないが、ご家族の支援(外出や外泊・通院等)・協力をいただき、家族の絆が切れない様にしている。遠方のご家族には定期的に電話で話せるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へは個人への支援は現状では厳しいが、面会の柔軟な対応や(前ショートステイ利用者へは)ショートステイ利用者との交流を行っている。	面会時は、家族や友人とのプライベートな空間を大切に考え、居室で過ごしてもらえるようにしている。出身地の異なる利用者にあわせた言葉づかいにも配慮した働きかけとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が苦手な方や難聴の方には職員が会話の取次を行い、相互関係が良好な状態になるよう援助に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退居された方のご家族など、退居後も身体状況を伺ったり、不定期で連絡をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	4月より計画作成担当が変更になり、今まで以上に本人の思いに寄り添った援助が出来るよう介護計画の作成を依頼している。	思いを把握するうえで、ホディータッチなどもふくめて利用者に寄り添うことを大切に考え、職員にはレクリエーションを共にすることも大切だが、会話をすることが大切と伝えている。言語化できない方々には暴力的な行動の背景を考え、その行動の意味をさぐるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当CMからの情報以外にアセスメント時点でより詳細な生活歴などを確認している。また、入居後もご家族や友人等の面会時に新たな情報があった場合には情報共有できるようにアセスメント表の追記を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる限りユニット内担当職員を固定し、ユニットごとで状態把握、情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングと担当者会議を行い、ご家族の意向を反映させている。また、入退院後には医師の意見や看護要約を元に随時介護計画の変更を行っている。	業務の流れにそった計画ではなく、職員意見・家族からのインタビューをもとに、個々にむきあった計画作成に取り組み、職員はタブレットで入力・情報共有できるようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカルテ(介護記録ソフト)への記録を元に申し送り帳やヒヤリハットノートを活用し情報共有している。また、個別の介護計画書がいつでも見られるようにユニットごとにファイルし見える化を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況や家ご家族様の状況に変化がみられる利用者様には随時サービスの見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を基本に、行政や各関係機関への協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望でかかりつけ医(主治医)をお選びいただき、関係医療機関との良好な関係を構築できている。	入居時に説明を行い、かかりつけ医を決めており、事業所の協力医の受診には職員が付き添い状況説明を行っており、ご家族への受診結果は、必要な時には電話にて行っている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回のナースラウンドで、その週の利用者様個々の状態を伝え、気になるところは申し送り等で情報共有している。特変時は同一拠点他事業所の看護職員に相談し、必要があれば救急搬送している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に管理者が病院関係者と連絡を密にし、良好な関係が構築できている。退院後のアフターフォローもいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に書面をもって説明を行い、同意・署名・捺印をいただいている。	終末期は行わない方針にある。その終末期の判断は口から食べられなくなった段階・医療的処置が必要な段階とし、事業所の協力病院へ入院対応としており、契約時に説明をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が初期対応を行えるわけではないが、看護職員・管理者・センター長に即時報告を行い指示を仰ぐようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、火災訓練・避難訓練を行っている。また、運営推進会議で関係各所へ協力の依頼を行っている。	近隣への周知が大切と運営推進会議でアドバイスを受けて、福祉施設であることを知らせている。また、近隣の協力病院と災害時における相互協力体制を築きたいと、病院への働きかけを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自立・自律の支援と個人の尊厳の尊重を基本にサービスを行っている。また、地域で根差した言葉使いを失礼のないように注意して使うようにし、施設での生活がより地域に密着した過ごしやすい場所となるよう心がけている。	利用者がなにを考え何を思っているかを大切に、そうしたことが生活の質の向上につながるかと考えて、自立・自律の支援を目標としている。	現在努力している自律支援のためにも、排泄や入浴などの場面だけでなく、利用者一人ひとりの尊厳、尊重を把握したうえで、職員が共通にサービス提供ができる取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り本人の意思や嗜好を取り入れたサービスになるよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での共同生活なので、個々人のそれぞれのペースでの生活の援助は厳しいが、なるべく希望を尊重するようにはしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれや身だしなみは本人の意思を尊重しているが、認知症が強い方のは通常の美的・衛生的感覚の範囲で援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢化と認知症状の低下で出来ない方が多くなっているが、できる方と一緒に食事の準備を行い、調理や片付けを行っている。(衛生管理上、主菜・副菜は厨房で調理・盛り付けを行っている。)	昨年8月より、日曜の昼食は、レクリエーションとしてかつ丼・煮込みうどんやカップラーメンなど目先を変えた食事提供をたのしんでいる。その際には、できる方には包丁を使ってもらったり、準備段階から参加意欲が高まるように促し、やらなかった方の活動へのたのしみにつながっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分量の記録を元に現病歴に合わせて食事の提供を行っている。また、日々の状況を申し送り、随時食事形態や量の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方は自力での口腔ケアを基本に、援助が必要な方には看護職員などに相談し、最適な口腔ケアが出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	すでに9割の方がリハビリパンツと尿取りパットを使用しているが、その方に合ったタイミングでのトイレ誘導を申し送り等で	一律に決まった時間で誘導はせず、個々の排泄のタイミングにあわせた誘導をしている。自立している方は様子をみながら、「トイレ空いたからどうですか」とさりげなく気づきを促している。	排泄における個々の能力を見極め、自立、自律に向けた介護支援の提供に期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	受診時に主治医に相談し便秘薬の処方をお願いしている。また、排泄注意者には日々の記録を元に看護職員に相談し、意見をもらったり、必要に応じて排便や座薬の挿肛を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では午前中にデイサービス、午後にグループホームの入浴時間となっており、各個人の希望やタイミングでの入浴は出来ない。今後も各個人の希望に合わせた入浴は実施できないと思う。	気の合った人同士で入浴できるよう順番に配慮したり、入浴を嫌がる方には職員を代えて誘ったり、気持ちよい入浴ができるよう支援している。温泉による効能で、皮膚疾患が改善されるなど、活かした入浴が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は各個人の意思を尊重している。ただ、昼夜逆転を防ぐため、日中は出来るだけ起きて過ごせる様、午前・午後と体操とレクの時間を設けている。(9割以上参加されている)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人ごとのファイルに薬剤情報があり、いつでも確認できるようになっている。また、個々人に合わせた服薬支援を行って、飲み込むまで確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人のアセスメント時の情報を元に、その方の生活歴や趣味を話題にあげ会話の仲介を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各個人の希望に合わせた外出の支援は行えない。外出に協力的なご家族もいるがごく少数。	個々の希望にあわせた外出を課題としているが、散歩に出掛けたり、畑をつくったり、玄関スペースで過ごしたりなど、外気にあたる機会をつくっている。また、家族にはともに外出することを歓迎していることを伝え、外食など普段行かない場所への外出が行われている方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	盗難や紛失の可能性があるので基本的には金品はすべて施設で預かることになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を持っている方は自由に電話している。施設の電話でご家族と会話できる方は機会を見て電話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃を行い、適度に換気しながら適温となるよう随時室温管理を行っている。また、日中は自然光を取り入れ、快適な空間となるようにしている。トイレ掃除も日中・夜間と行い、においや衛生面で気を付けている。	温度差がある地域なので、温度管理には注意を払っている。異食の症状の方がいたり、掲示物による危険性に配慮したりするなか、空間づくりを模索している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの食卓やソファ、エレベーターホールのソファなど個々人が思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも協力いただき、本人の慣れ親しんだものをなるべく持ってきていただいている。	入居の際には、できるだけ慣れ親しんだものを持ってきてほしいことを伝え、こたつや化粧品が置かれたり、自筆の掛け軸や庭先に摘んだ花が飾られている居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部やトイレ、居室などの表記を「見やすく、わかりやすく」する工夫をしている。		